



山上門は、栄町1丁目のあづまが丘公園内に移築されており、もとは水戸藩の江戸上屋敷であった小石川邸(東京都文京区、後楽園は屋敷の一部)の正門右側にあり、勅旨奉迎(京都の朝廷から使者を迎える)のために特に設けられたものといわれています。門の名称については、後に屋敷内の「山上」と呼ばれる場所に移築されたことによるといわれています。

この門は薬医門という形式で、親柱の後ろに2本の控柱を立て、その上に切妻屋根をかけており、城や寺院などの門として広く用いられました。

幕末には水戸藩は大きな役割を果たしており、水戸藩第9代藩主徳川 斉 昭公の改革を中心的に支えた藤田東湖などを訪ねて佐久間象山(松代藩)、西郷隆盛(薩摩藩)、橋本左内(福井藩)などの諸藩の志士たちもこの門をくぐり、小石川邸に出入りしたと伝えられています。

昭和11年に深作貞治氏(名誉市民)が当時の陸軍省から払い下げを受け、反射炉跡地がある「吾妻台」に移築したものです。小石川邸はすでに失われてしまったため、水戸藩邸を知るうえで歴史上重要な門となっています。

平成4年6月に、市指定有形文化財に指定されています。